

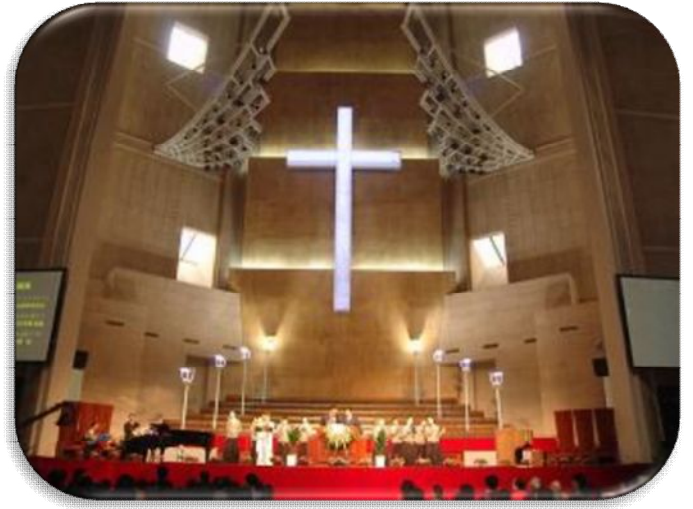
# 工藤篤子メールマガジン 123号

2008. 04. 17

～中国賛美コンサート報告～

一昨日、無事、杭州から大阪に戻りました。  
皆さんのお祈りに、心から感謝いたします！  
以下、中国での賛美奉仕の報告をさせていただきます。

(写真:崇一堂コンサート)



## ●崇一堂



「崇一堂」(チョン・イー・チャーチ)は、1866年から始まったOMF(旧チャイナ・インランド・ミッション)の宣教の働きにより、1902年に杭州に建てられた教会です。しかし、1949年の政権交代で、敷地の半分は鉄道会社、もう半分は高架建設会社に渡り、崇一堂は消滅してしまいました。

その50年後、多くの人で入りきれなくなった長老派の教会である「思澄

堂」(スー・シェン・チャーチ)の姉妹教会を建てる計画が持ち上がりました。その時、新しい教会に遣わされることになっていた顧牧師らは、未来の教会を「崇一堂」と命名することにしました。しかし、崇一堂復興祈願の祈りは、60年前に教会が無くなったときから、文化大革命の迫害の時も、絶えず杭州の聖徒たちによって積まれてきたのだそうです。そして「崇一堂」は、2005年5月5日、ついに中国最大の教会となって復活したのです。

今回は、2度目の訪問ということもあり、多くの兄弟姉妹が、まるで自分たちの教会員のように、暖かく迎えてくださいました。そして、多くの方々と素晴らしい交わりの時を持つことが許されました。董姉と荘田兄の素晴らしい通訳により、今、まるで中国のみなさんと直接親しくお話したような錯覚を覚えています。お二人の献身的なご奉仕に、心から感謝しています。



(写真左上:コンサートのスタッフとコンサート前の祈り 写真右上:コンサートスタッフと崇一堂正門前で)

## ●耶和華祝福満々



私は、2006年秋にこの教会に招いていただきましたが、そのときは、ノロウィルスにかかり、大変な状態になりました。けれども、講壇に上がった瞬間、まるで雲の上にもいるかのように、いい気持ちになったのです。そして、最後まで倒れずに主に心からの賛美を捧げることができました。後で、講壇の下にある寒い祈祷室で何十人もの兄弟姉妹が、私が賛美を捧げている間中、祈りを捧げていてくれたことを知らされ、胸が熱くなりました。

あの時は、アメイジング・グレイスで、会場みなさんが唱和し始め、最後には大合唱になりました。今回は、台湾語の美しい賛美歌「耶和華祝福満々」を歌った時、歌の途中で大きな拍手が湧きあがったので、驚きました。後で聞くとところによると、この歌は中国でもよく賛美されている歌であり、こちらでは北京語訳で歌われているのですが、中国人たちは台湾語では歌えないのに、日本人の私が台湾語で歌ったので、その感動から拍手が沸き上がったのだそうです。そして最後には、会場の5千人以上のみなさんと、高らかに「耶和華祝福満々」を歌って主をほめたたえました。

## 耶和華祝福満々（神の満々の祝福）

（日本語訳）

田圃の白鷺は  
何ひとつ欠けることなく  
山頂の百合は  
春になると香りを放つ  
全能の神は  
私たちが毎日祝福してくださる  
大地は芽を出し、実を結び、  
それによって愛の印を示す

神の祝福は満ち溢れる  
みめぐみも慈愛も  
世々限りなく続く  
だから私は手を挙げ、神を拝し  
喜びの声を上げる  
そして、永遠に限りなく主の御名を賛美し、神をほめたたえる



## ● 「うつ病」の証し

中国へ行く前日、歌の合間に挿入する証しを祈り考えていたとき、不思議と「うつ病からの回復」の証しをするよう強い導きを感じました。コンサートの後半でその証しをした時、会場は波を打ったように静かになりました。皆さんが真剣に私の証しを聞いてくださっていることが分かりました。



コンサートの直後、何人かの方から、「あの証しが非常によかった。心に語りかけられるものがあった。」という反響が顧牧師の携帯メールに届きました。皆うつ病で悩んでおられる方だったそうです。中国では、貧しい人より、裕福な人や知識人にうつ病が多いそうです。混沌とした中で、急スピードで発展している中国です。そのような中、心の病の方がさらに増えてゆくことが予想されます。しかし、教会も成長しています。中国の教会が、真の救い主、癒し主であるイエス様を大胆に証しされますように、また主が愛してやまない中国の皆さんがひとりでも多く、キリストの救いに入れられますように、心から祈っています。

## ●愛の交わり

今回の杭州訪問では、何人かの兄弟姉妹と個人的にお交わりをすることが許されました。皆さんの多くはクリスチャン・ホームに育った方々で、中には5代目クリスチャンという姉妹もおられました。クリスチャンの両親、祖父母は、迫害をくぐり抜けてきました。多くは強制収容所に入れられ、収容所を出た後も、わずかな給料しか与えず、貧しい生活をしてきました。学校では、クリスチャンの子供ということで正門から入ることが許されず、小門から入らなければならなかったそうです。

けれども、みな愛に溢れ、心から仕えてくださる方ばかりでした。この時代に、こんな純粋な人たちがいるのだと感動しました。コンサートで伴奏してくださったピアニストも、音響録画スタッフの方々も、車で送り迎えしてくださった兄弟方も、賛美チームの若者たちも、みな、「私たちは神様から溢れんばかりの恵みをいただいているから、こうやって主のために仕えることができほんとうに嬉しい」と顔を輝かせながらおっしゃるのです。一年半前のコンサートで大合唱した「アメイジング・グレイス」も、今回の「耶和華祝福満々」も、ここのみなさんの心からの賛美なのです。



聖徒の交わりの真髄である「愛の交わり」に触れさせていただき、奉仕に行かせていただいた私の方が、大きな恵みと霊的祝福をいただいた中国旅行となりました。

(写真：コンサート後の集合写真。私の左がピアノ伴奏の張兄、右が顧主任牧師、章牧師、通訳の荘田兄、青年聖歌隊の皆さんと)

## ★お祈りください

これからゴールデンウィークのレコーディングに向けて、準備を始めます。どうぞ、主のために用いるCD録音ができますよう、お祈りください。また、5月からのコンサートのためにもお祈りください。

ゴールデンウィーク中 レコーディング

5月11日(日) 堺栄光教会 賛美コンサート  
5月15日(木) 北本福音キリスト教会 婦人会伝道コンサート  
5月17日(土) 「愛と希望と平和をあなたに」コンサート(VIP 埼玉)  
5月25日(日) インマヌエル聖宣神学院 チャペルコンサート  
6月 2日(月) 札幌ザ・ルーテルホール・ジョイント・リサイタル

\*それぞれのコンサートの詳細、お問い合わせ先等は、ホームページのスケジュールをご覧ください。

<http://atsukokudomm.com/html/schedule.html>

工藤篤子